

総会議案書



日時 2023年5月16日

富田林の自然を守る市民運動協議会

総会次第

議事

- 第1号議案 2022年度 事業報告 P. 1
(生物多様性保全のための基礎調査～R3年度
「自然環境保全活用調査その20」報告書より抜粋～を含む)
- 第2号議案 2022年度 会計決算報告 P. 16
- 第3号議案 2022年度 会計監査報告 P. 17
- 第4号議案 2023年度 事業計画(案) P. 18
- 第5号議案 2023年度 予算(案) P. 20
- 第6号議案 2023年度 役員(案) P. 21

第1号議案 2022年度 事業報告

I. 2022年度の活動の概要

当『富田林の自然を守る市民運動協議会（以下協議会と略す）』の活動は大きく分けて①自然環境保全の直接的な活動、②自然にかかわる文化的な活動、③自然観察、調査研究、提言活動の3つを統一的にとらえて実施している。具体的には①に関しては「里山ホリデー」、「中野町竹林整備（市街化地域の自然保護）」、②に関しては「米作り体験（田植え、稲刈り、稲こぎ）」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどともちつき」、「里山生活入門」、「自然観察会（植物、昆虫、野鳥、水生生物、観察会入門）」、③に関しては「自然観察会（②と共通）」、「自然環境活用調査への協力」、「〈富田林の自然〉誌の発行」、「生物多様性保全に関する取り組み」などである。上記の各種行事に関しては当会の構成団体の一つである『富田林の自然を守る会（以下守る会と略す）』が行う活動の中で協議会主催行事として実施している。

一方、『守る会』は2019年度から設立30周年記念事業として、奥の谷において観察路の整備とその両側10mの里山的管理を実施しており、『協議会』の取り組みもこれに準じて実施した。

2022年度は新型コロナウイルスの感染が少し落ち着いてきたことから中止していた多くの行事を再開した。行事は『守る会』が定めている「新型コロナウイルス感染防止のための指針」に基づいて人数制限などを実施した。

II. 具体的な活動

1. 自然環境保全活動（生態系保全活動）

(1) 里山保全活動

『守る会』は奥の谷（富田林市彼方）において、里山保全活動を実施している。主なテーマは①雑木林の林床管理、②人工林（スギ・ヒノキ林）の間伐・整備、③雑木林や人工林に侵入した竹の除伐及び竹林管理、④水田（その多くは放棄田となっている）の畦やため池の土手などの草刈り、⑤水生生物の保護（水の生き物池の管理）である。『協議会』は「里山ホリデー」及び「里山保全と交流会」と称する行事を主催し、里山保全の活動に参加している。2022年度はNICEの週末ワークキャンプ（「守る会」とNICE

表1 里山保全活動（協議会主催）

No.	開催日				行事名	作業内容	参加人数		
	年	月	日	曜			大人	子ども	計
1	2022	4	23	土	里山ホリデー	コナラの処理、風倒木伐採	5	0	5
2		5	21	土	里山ホリデー	人工林間伐	7	0	7
3		6	19	日	里山ホリデー	「さともしり」対象林作業路造成	6	0	6
4		7	16	土	里山ホリデー	水の池補修、楢木整理、階段補修	4	0	4
5		11	12	土	里山ホリデー	薪用木材の運搬	3	0	3
6		12	18	日	里山保全と交流会	薪割り、交流会	16	1	17
7	2023	1	14	土	里山ホリデー	どんど焼き準備	5	0	5
8		2	11	土	里山ホリデー	シイタケ植菌、工作	6	3	9
9		3	11	土	里山ホリデー	里山神戸大学ワークキャンプに合流	6	0	6
合計							58	4	62

表2 自然を守る会独自の活動

No.	開催日				行事名	作業内容	参加人数			
	年	月	日	曜			大人	子ども	計	
1	2022	4	1	金	里山保全作業	雑木林作業路整備	10	0	10	
2		5	6	金		雑木林作業路整備	11	0	11	
3		6	3	金		「さともしり」対象林作業路造成	9	0	9	
4		7	1	金		「さともしり」対象林作業路造成・植生調査	10	0	10	
5		8	5	金		(里山保全作業はなし)	—	—	—	
6		9	2	金		雨天中止	—	—	—	
7		10	7	金		雨天中止	—	—	—	
8		11	4	金		「さともしり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	9	0	9	
9		12	2	金		「さともしり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	10	0	10	
10		2023	1	6		金	「さともしり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	9	0	9
11			2	3		金	「さともしり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	8	0	8
12			3	3		金	「さともしり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	10	0	10
合計							86	0	86	

の共催事業)と合同でこれらの行事を実施した。『協議会』の行事では主に上記②の「人工林の間伐・整備」を実施した。その実施状況を表1に示す。

『守る会』では2022年度より3年計画で林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策事業(さともしり事業)」の交付金を受け、5.8haの雑木林の管理を開始しており、『協議会』の事業以外にも『守る会』独自の「里山保全作業(大阪シニア自然カレッジ里山部会から多くの人々が参加している)」や上記「NICE週末ワークキャンプ」、会員による「自主活動」などにより上記の5つの活動を展開している。それらの活動状況を表2、3および表4に示す。

2022年度の参加延べ人数は『協議会』主催の「里山ホリデー」では62人、『守る会』独自の「里山保全作業」では86人、外部団体との共催・受け入れでは665人、守る会の自主活動では284人で、里山保全活動に関わった総延べ人数は1,061人であった。

(2) 石川河岸段丘の竹林整備(中野町)

太古の石川の河岸段丘崖が石川左岸側に延びており、竹林を中心とする自然植生が虫食い状に残されている。これらの自然は里山の自然とは異なるが、市街地に隣接する自然として極めて重要であると考えられる。これらの中でも中野町の竹林は比較的まとまった形で残されている。協議会は2009年から自然豊かな地域の憩いの場として整備している。

当竹林は岸本忠三氏をはじめ竹林の地権者から市が寄贈を受け、2021年度から市の管理となる予定であったが、移管の作業が遅れたため、2022年度はほとんど無管理状態と

表3 外部団体との共催・受け入れなど

No.	行事	主催団体	作業内容	参加者数		
				団体参加者	守る会参加者	計
1	週末ワークキャンプ(1泊:10泊)	NICE	里山見学, コナラ伐採, 人工林間伐, 薪割り, 草刈り, 雑木林の下刈り, 観察路造成・補修, イノシシ柵補修, 木材搬出など	175	34	209
2	グループワークキャンプ(14泊)	京都大学(NICE)	里山見学, 「さともしり」対象地下刈り, みかん小屋補修, 観察路補修, 人工林間伐	110	63	173
3	グループワークキャンプ(10泊)	神戸大学(NICE)	里山見学, 「さともしり」対象地下刈り, みかん小屋補修, 観察路補修, 人工林間伐	80	55	135
4	グループワークキャンプ(1泊)	大阪公立大学探検部	「さともしり」対象林明示	9	5	14
5	里山関連の講座(3回)	自然環境保全協会, シニア自然カレッジ	人工林間伐(実習)	42	11	53
6	溜池, 用水路などの草刈り整備	守る会, NICE, 水利組合などの協働	溜池土手, 水路周辺の草刈り	10	10	20
7	各種団体(5団体:8回)	自然環境保全協会, 楽描の会など	山地・放棄田などの草刈り	55	6	61
合計				481	184	665

表4 自主活動(里山保全に関わるもののみ)

開催日	作業内容			参加人数
	年	月	回数	
2022	4	2	生き物の池周り草刈り, 散策路草刈り	2
	5	11	散策路補修(階段など), 枯死木処理, 倒木処理, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 薪割り, 猪作補修	28
	6	12	水田補修, 生き物池補修, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 猪作補修, 倒木処理, チッパー作業, ため池整備	29
	7	18	シタケ原木廻り整備, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 生き物池修理, 散策路補修(階段など)	44
	8	6	生き物池補修, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 猪作補修	14
	9	7	草刈り(水田, 畦, 散策路など), 生き物池補修	16
	10	16	散策路補修(階段など), 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 猪作補修, 薪割り, 水の生き物池管理	44
	11	8	薪割り, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), コナラ伐採	24
	12	6	草刈り(水田, 畦, 散策路など), 木材運搬, 薪作り, 伐採木整理	19
2023	1	6	竹林間伐, 水田草刈り, 散策路補修, 木材運搬, 倒木処理	23
	2	7	シタケ棺木造り, 人工林間伐, 散策路補修, 生き物の池管理, 南原草刈り	19
	3	7	生き物池補修, 倒木処理, 木材運搬	22
合計				284



人工林の間伐作業

なった。12月ごろから工事が始まり2023年3月に終了した。4月4日に「岸本記念自然緑地公園」としてオープンし、除幕式が行われた。開園に向けた工事に関して以下のような問題点が指摘された。

①園路の幅が2m広く、ヒメボタルや植生への影響が懸念されること。

②明るい街灯が設置され、これまでの整備に伴い年々増加してきたヒメボタルの生息やその他の昆虫類や周辺の植物など大きく影響することが予想されること。

協議会はこれらの問題について話し合い、今後の管理について次のような対策を講じることとした。①については、今後の管理の中で道幅を1.5m程度に狭めていく(園路はコンクリなどの硬い舗装ではなく真砂土を敷き詰めただけであるので可能)。②については、㊦ホタルへの影響が大きいと考えられる4月～7月の間は完全に消灯する、㊧8月～翌年3月までの間は点灯時間を夕暮れから3時間程度とする、㊨光量を小さくし、通路のみを照らすように街灯に覆いを施す、㊩ホタルをはじめ昆虫類は赤い光の影響を受けにくいので、光源を赤いプラスチックなどで覆う。(富田林の自然を守る会の会員によって、モウソウチクを利用した覆いを試作検討中である)。

今後も協議会で2022年度に作成した「中野町竹林における植生管理の方策」を活用し、適宜調査を実施して順応的管理の方策を提言していくこととしている。

2. 文化的活動（自然とふれあい、自然に親しむ活動、自然への理解を深める活動）

(1) 米作り体験

米作り体験の実施状況を表5に示す。奥の谷の水田(約300m²)を借地し、米作りを実施。協議会の行事としては①田植え、②稲刈り、③稲こぎ(脱穀)を行った。田植えは予定した6月11日が雨で中止となり翌日に順延して実施した。三行事を通じた延べ参加人数は74人であった。水田の耕耘、苗代づくり等田植えの準備、田植え後の水の管理、田の草取りなどは守る会が行った。

(2) その他の文化的行事

その他の文化的行事の実施状況を表6に示



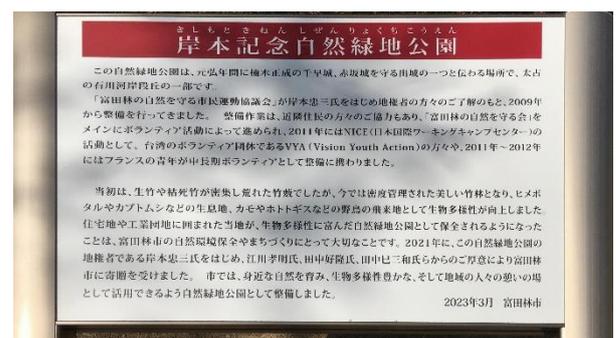
竹林に発生したヒメボタル
2022年6月1日(小島氏提供)



オープニングセレモニー(富田林百景より)



造成された園路と街灯(富田林百景より)



説明版



3年ぶりに行われた餅つき

す。「タケノコ堀り」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんど」、「里山生活入門」、「観察会入門」を計画した。「タケノコ堀り」は中野町竹林で、その他の行事は奥の谷で計画したが、「春の野草を食べる会」と「里山クラフト」は雨天中止となった。「どんどともちつき」については、昨年は新型コロナウイルス感染防止の観点から餅つきを中止したが、今年度は実施した。実施できた4行事の参加人数は55人であった。

表5 米づくり

No.	行事名	実施日	参加人数			備考
			大人	子ども	計	
1	田植え	6月12日	12	6	18	11日が雨のため順延して実施
2	稲刈り	10月15日	17	6	23	
3	稲こぎ	11月5日	25	8	33	NICE11人参加
合計			54	20	74	

表6 その他の文化的行事

No.	行事名	実施日	参加人数			備考
			大人	子ども	計	
1	タケノコ堀り	4月16日(土)	5	0	5	中野町竹林
2	春の野草を食べる会	4月29日(金)				雨天中止
3	里山クラフト	11月23日(水)				雨天中止
4	どんどともちつき	1月15日(日)	22	6	28	
5	里山生活入門	1月28日(土)	4	4	8	
6	観察会入門	2月25日(土)	8	6	14	
合計			39	16	55	

3. 自然観察・調査研究・政策提言活動など

(1) 自然観察

自然観察会の実施状況を表7に示す。植物観察会は9回計画し7回実施、135種の開花草本植物を観察した。水の生き物観察会では7種の生き物を、昆虫観察会では46種の昆虫を観察した。野鳥観察会は雨天のため中止となった。実施した観察会を通じての延べ参加者数は88人であった。

表7 観察会の実施状況

No.	行事名	実施日	参加人数			備考
			大人	子ども	計	
1	植物観察会	4月9日(土)	4	2	6	奥の谷
2		5月15日(日)	5	0	5	奥の谷
3		6月4日(土)	4	0	4	金剛福祉C~親心寺
4		7月10日(日)	6	0	6	奥の谷
5		8月13日(土)	—	—	—	参加者なく中止
6		9月19日(月)	2	0	2	奥の谷
7		10月22日(土)	4	0	4	春日神社~奥の谷(ドングリと草花)
8		11月27日(日)	6	0	6	奥の谷(木の実)
9		2月25日(土)	8	6	14	奥の谷(観察会入門)
10		3月25日(土)	—	—	—	参加者なく中止
合計			39	8	47	
11	水の生き物観察会	6月25日(土)	14	13	27	奥の谷
12	昆虫観察会	7月23日(土)	16	12	28	奥の谷
13	野鳥観察会	2月19日(日)	—	—	—	雨天中止
総合計			69	33	102	

(2) 自然環境保全活用調査

富田林市が里山倶楽部に委託した調査に、協議会が協力して調査に参加した。今回の調査は「平成28年~令和3年度調査の全体まとめ」および「補足現地調査(東板持地区)」と「生物多様性保全の視点からの提案」であった。「自然環境保全活用調査その21」として調査報告書にまとめられた。本経過報告の末尾に調査概要を掲載する。



水の生き物観察会

(3) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

富田林市緑の基本計画は2019年3月に新しく策定され、3年を経過したが計画のほとんどが未着手となっている。計画ではPDCAサイクルで進行管理をすることになっている。2020に当協議会で進行管理を行うこととなったが、その後も具体的には進んでいない。あらためてPDCAサイクルによる進行管理の方策について

議論することになった。

(4) 森林環境譲与税の使途について

2019年度から森林環境譲与税が国から地方自治体に分配されている（2024年度から住民税納税者1人当たり年間1,000円が課税される。譲与税はそれに先立って分配されている）。市は当初その全額を新庁舎建築の一部に使用する計画であったが、『富田林の自然を守る会』などから全額を「富田林市内の森林環境保全に使用すべき」との要望を受けて、その方向で検討が進められている。

協議会はその検討に向けて市と共に市内の森林環境の調査を開始した。2022年4月に東板持を、2023年2月には奥の谷の調査を実施した。

(5) 生物多様性保全について

多くの市民に生物多様性の重要性の認識を広めようと、2021年度に市民向けの講演会を企画したが、新型コロナウイルス蔓延防止等重点措置のため中止となった。2022年度は具体的な検討は進んでいない。

(6) 「富田林市緑の基本計画」の実施に向けて

「富田林市緑の基本計画」は2019年3月に以前の「計画」（2007年）を見直す形で策定された。しかし、現在に至るまで具体的な進展がみられていない。この計画に示されているPDCAサイクルの進め方について議論した。

(7) 冊子「富田林の自然」No. 19の発行

2021年3月にNo. 18を発行して以来、発行できていない。できるだけ早く発行できるよう準備を進めている。

(8) 守る会などによる調査

① モニタリング 1000 里地調査（以下モニ 1000 と略す）

モニ 1000 里地調査は環境省が日本自然保護協会（以後 NACS-J と略す）に委託して実施している調査で、『守る会』は 2009 年から奥の谷において植物およびチョウの調査を行なっている。2022 年は 14 年目となる。

② フクロウの調査への協力

守る会は大阪公立大学のフクロウ調査に協力した。奥の谷に設置した巣箱にフクロウが営巣し産卵したが、羽化に至らなかった。また、他の巣箱には 2021 年度に続き 2022 年度もムササビが入っているのが確認された。

4. 協議会参加団体の活動

(1) 金剛の自然環境を守り育てる会

2007 年錦織公園周辺でオオタカの生息が確認され、近隣の宅地開発から自然環境を守りたいと寺池台 3 丁目の住民が立ち上げた会です。

16 年の間には 10 年間、寺池台小学校 5 年生といっしょに米作りもしてきました。

会員の高齢化で活動が制限され後継者もいないことから 2023 年 3 月末をもって会の活動を終えることになりました。

富田林の自然を守る市民運動協議会の皆さんにはいろいろ教えていただき、助けていただ



き感謝しています。

オオタカが餌を狙っていた田んぼを見下ろす一本の木、再びオオタカが戻ってくることを願っています。

連絡先：喜田光子、〒584-0073 富田林市寺池台3-15-10 TEL 0721-28-4737

(2) 特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「新しい“里山的” 生き方・暮らし方 の提案」をコンセプトとして、里山の保安全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行なっています。会員は約120名。河南町の里山や富田林市の嶽山ふもとの果樹園などで、ボランティアの仲間が楽しみながら、雑木林や棚田、果樹林の保全活動を行なっています。

<講座および自由参加活動>

- 里山ボランティアの日（里山体験） ●里山日和（里山体験）
- 里山っ子クラブ（子供対象） ●もりあん（技術講習）
- 弘川千年の森（協働事業） ●ツリーイング（木登り）
- 里山と暮らす応援講座（里山実習）
- 源流米パラダイス（棚田の保全活動）
- スモールファーム自給塾（農業研修）

<生産販売事業>

●里山事業部（森林作業請負、炭・薪等の生産販売）

●里山倶楽部自然農場（無農薬米、野菜等の生産販売）

<まちづくり・調査研究活動>

●里山バイオマスイエネジー事業部（薪炭林のエネルギー化研究）

●里山環境教育オフィス（企業・行政との協働事業、ワークショップ等の受託事業）

連絡先：寺川裕子、〒584-0024 富田林市若松町4-20-6, TEL 072-333-0309



里山と暮らす応援講座

連絡先：寺川裕子、〒584-0024 富田林市若松町4-20-6, TEL 072-333-0309

(3) 石川自然クラブ

石川自然クラブは、石川河川公園でのボランティア活動として、石川の自然について学び、考え、調べ、遊び、行動することを通じて、石川本来の川の流れや河原の自然環境をとりもどし、地域の暮らしと共生する自然豊かな川づくりを行なうことをめざして、以下のような活動を行っています。

- ① 石川の自然や生きものについての学習・観察・調査
- ② 石川の自然についてのPR活動
- ③ 石川の自然にふさわしい整備や管理についての共生型技術の検討・提案
- ④ 石川流域におけるネットワーク活動

毎月一回、第二木曜日に、石川に生息する希少な生きものを守る「自然ボランティア」活動、各季節に植物・魚・昆虫・動物・野鳥の自然観察会



も実施しています。また、「石川自然公園自然ゾーン計画運営協議会」では、行政や地元町会と協働して石川の自然についての様々な取り組みを行っています。

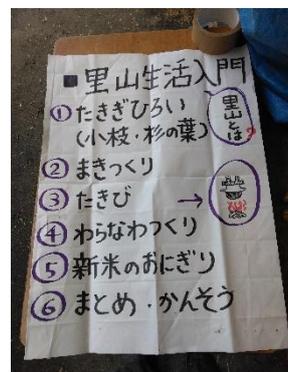
連絡先：寺川裕子, 〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309

(4) 嶽の会

2023年1月28日里山生活入門を実施、大人3人子ども4人の計7人の参加でした。

山に登って焚き木を拾い、枯れ竹を割り、その焚き木を使って釜でご飯を焚きました。塩のおにぎりをみんなで作って食べました。

連絡先：上角敦彦, 〒584-0024 富田林市若松町 4-6-29, TEL 0721-24-8757



(5) 竜泉・里山クラブ

当クラブの作業は、4月にミカンの剪定枝の収集・焼却に始まり、年末のミカンの採果で、一段落します。

その間に例年通りの作業をしました。小屋裏の栗の剪定、椎茸菌の駒打ち、年2回の竹炭・竹酢液の製造、竹の間伐、好評の里芋・さつまいもの植え付。加えてキーウイ、隼人瓜、山うど、下仁田ネギ等の栽培をしており畑はいっぱいです。

嬉しいことに養蜂が順調で、巣箱10箱を設置し、蜜が年間8キロ採れました。分蜂の捕獲も慣れてきたところです。

また当クラブは、雨水を飲料にしています。ろ過装置に竹炭を使っており会員が当番で清掃をしています。

竹製の植木鉢、竹灯籠、足踏みをイベント販売用に制作しましたが、開催が無く残念でした。会員は18人と減少、高齢化をたどっており、新規会員の獲得が急務です。

連絡先：副代表 中島正博 河内長野市小山田町 3079-8 TEL 090-7118-2517



炭焼き

(6) NPO 法人学びと育ち南河内ネットワーク

NPO法人『学びと育ち南河内ネットワーク(略称『まなそだネット』)』は、富田林を中心とした子ども達の学びと育ちを支援するために、2018年に府立富田林高校の同窓会が中心となって設立されました。そして、「科学教室力塾」の「探究教室」では、「まなそだネット」の「スカラシップ魁(さきがけ)」の奨学制度を受け、多くの小中高生が研究活動を行っています。自然に恵まれた南河内地域を主なフィールドとして活動し、研究を深化させ、毎年、科学コンテストや学会などで全国レベルの成果を上げています。

「探究教室」のコンセプトは「探究」と「貢献」です。研究テーマは地域への貢献を意識し、得られた成果は地域貢献という形で様々な機会に発信しています。2022年度は、2023年3月29日(水)、NPO法人大阪シニア自然カレッジ15期生修了式の記念講演において、「地域の自然を探究する高校生たち」というテーマで、5組8名の高校生が研究成果について発表しました。各演題は「石川の魚類相の変遷～その要因につ



高校生の研究発表の様子(2023年3月)

いての一考察～」「石川に生息するオオシマドジョウの生態」「アカハライモリの警戒色の多様性」「河川の自然浄化と水流との関係について」「タイリクバラタナゴの赤色に対する特異な行動」であり、石川流域の自然環境や野生生物の現状について報告し、受講生とディスカッションを行いました。

連絡先：小川力也, 〒584-0032 富田林市常盤町 15-10 石田ビル 3 階, TEL0721-55-4681

(7) 富田林の自然を守る会

『協議会』参加団体の内『守る会』の活動については協議会の活動と一体的な部分が多くそれらは上記協議会の活動報告に記載した。2022 年度は班体制を見直し班としては「炭焼班」、「ミツバチ班」、「カレー班」の 3 班とし、その他の活動、例えば施設整備、米づくり、草刈りなどについてはそれぞれ代表者を置き活動した。また、『守る会』の今後に向けた「会のあり方検討会」を立ち上げ検討を開始した。

NICE の活動として、国際ワークキャンプは 2022 年度も新型コロナウイルス対策により中止となったが、京都大学および神戸大学のグループワークキャンプを実施した。

連絡先：田淵武夫, 〒584-0024 富田林市若松町 4-16-21, TEL 090-8888-3912



雑木林の下刈り
(神戸大学ワークキャンプ)

5. 2021 年度の活動などで特徴的だったこと

(1) 岸本記念自然緑地公園が開園された。

(園路幅、街灯など課題を残すことになったが、今後の管理の中でヒメボタルをはじめ生物への影響をできるだけ小さくする方向で検討することとなった)

(2) 中野町竹林(現岸本記念自然緑地公園)に 2021 年につづきヒメボタルが多数発生した。

(3) 『守る会』が京都大学と神戸大学のグループワークキャンプを受け入れた (NICE)。

(4) 『守る会』が林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金(さとり)」を受けた (808,500 円)。

(2022 年度から 3 年計画で奥の谷の雑木林 5.8ha の里山整備を実施する。2022 年度は林床のネザサの刈り取りと蔓直物の除伐を実施した)

(5) 『協議会』の構成団体の『金剛の自然環境を守り育てる会』が 2022 年度で解散することになった。

(この会は 2007 年にオオタカの生息する自然環境を守りたいと寺池台 3 丁目の住民が立ち上げた会である。寺池台 3 号公園の整備や寺池台小学校と米作りを行うなど地域の自然環境保全に大きく貢献した)

6. 会議

(1) 役員会

2022 年 4 月 15 日 (金)、5 月 9 日 (月)、6 月 17 日 (金)、7 月 15 日 (金)、9 月 30 日 (金)、10 月 21 日 (金)、12 月 28 日 (水)、2 月 17 日 (金)。

(2) 会計監査

2022 年 3 月 31 日 (金)。

(3) 総会

2023 年 5 月 16 日 (火)。

自然環境保全活用調査その21報告書 抜粋

1. 生物多様性保全のための基礎調査

(1) 富田林の生物ホットスポットについての文献調査

① 調査文献

富田林市の「生物多様性地域戦略」の策定に向けたデータ収集として、既存の文献から市域の生物多様性についての「ホットスポット※」の情報をピックアップした。調査した既存文献はそれぞれ目的が異なりデータの精度もまちまちであるが過去の記録として重要であり、生物多様性保全の基礎データになる。今回調査したのは下記の文献である。このうちNo.5 モニタリングサイト 1000 は、専門知識をもつアマチュアによる調査である。

※希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域（大阪府レッドリスト 2014 より）

No.1 大阪府 生物多様性ホットスポット、地形・地質レッドリスト

- ・調査時期 2000 (H12) ～ (大阪府レッドデータブックの改訂版)
- ・調査場所 大阪府内
- ・調査者 大阪府レッドリスト改訂検討委員会
- ・掲載文献 大阪府レッドリスト 2014
<https://www.pref.osaka.lg.jp/midori/tayouseipartner/redlist.html>

No.2 大阪府 自然環境保全地域

- ・調査時期 2004 (H16) 年
- ・調査場所 大阪府内
- ・調査者 大阪府
- ・掲載文献 大阪府 Web サイト
<https://www.pref.osaka.lg.jp/midori/midori/sizen.html>

No.3 富田林市 指定保存樹林

- ・調査時期 1991 (H3) 年
- ・調査場所 富田林市内
- ・調査者 富田林市
- ・掲載文献 富田林市「緑の基本計画」 2007 (H19) 3月
<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/uploaded/attachment/2165.pdf>

No.4 特定植物群落（自然環境保全基礎調査 第2回、第3回、第5回）

- ・調査時期 1978 (S26)、1983 (S31)、2001 (H13)
- ・調査場所 全国
- ・調査者 環境庁自然保護局
- ・掲載文献 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書
https://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_list_h.html

No.5 モニタリングサイト 1000

- ・調査時期 2019 (R1) 年
- ・調査場所 全国
- ・調査者 全国のボランティア団体（富田林市：富田林の自然を守る会）
- ・掲載文献 2000年度モニタリング調査 1000 里地調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/monil000/findings/reports/>

② 富田林市の生物ホットスポット

これらの文献に記載された富田林市内のエリアは、以下のとおりである。

	エリア	位置づけ	備考
1	天野川ー石川の河川争奪跡 および段丘	地形・地質レッドリスト	大阪府レッドリスト 2014
2	石川周辺	生物多様性ホットスポット C ランク	大阪府レッドリスト 2014
3	美具久留御霊神社	生物多様性ホットスポット C ランク	大阪府レッドリスト 2014
		自然環境保全地域	大阪府
		市指定保存樹林	富田林市
		特定植物群落	自然環境保全基礎調査
4	春日神社	市指定保存樹林	富田林市
		特定植物群落	自然環境保全基礎調査
5	錦織神社	市指定保存樹林	富田林市
6	滝谷不動明王寺	市指定保存樹林	富田林市
7	佐備神社	市指定保存樹林	富田林市
8	奥の谷	モニタリングサイト 1000	富田林の自然を守る会

さらに、平成28年度から実施している本調査（「生物多様性保全のための基礎調査」）で、動植物について比較的良好に調査されており、多くの絶滅危惧種が記録されている箇所として、「奥の谷」「錦織公園」「石川」があげられる。

<過去の調査データの絶滅危惧種数>

指定種 エリア	植物		昆虫		鳥類	
	国 RDB	府 RDB、指定	国 RDB	府 RDB	国 RDB	府 RDB
奥の谷	2	13	5	12	1	3
錦織公園	5	25	0	0	9	29
石川	8	1	4	11	3	17

これらの情報を加味すると、富田林市の生物ホットスポットとしては以下の8ヶ所が重要になると考えられる。ただし、これらは過去の文献調査のみに基づく抽出であり、さらに検討が必要である。

- 1) 石川 : 本流や河川敷、周辺緑地、河川争奪跡および段丘 など
- 2) 奥の谷 : 里山林、棚田、耕作放棄地、池・湿地 など
- 3) 錦織公園 : 里山林、池・湿地 など（公園未利用地を含む）
- 4) 美具久留御霊神社 : 典型的なシイ林（樹齢200年、ナナメノキ、アラカシ、ヒサカキなど）
- 5) 春日神社 : シリブカガシ林（シリブカガシ、アラカシ、ヒノキ、コジイなど）
- 6) 錦織神社 : コジイ、スギ、ヒノキ、クスノキ など
- 7) 滝谷不動明王寺 : アラカシ、ヒノキ、モミ、スギ、アカマツ など
- 8) 佐備神社 : サカキ、クスノキ など

<過去の調査データの絶滅危惧種 ～植物～>

	科名	種名	奥の谷	錦織公園	石川	備考
1	アカウキクサ科	オオアカウキクサ			●	国：Ⅰ類、府：絶滅
2	アブラナ科	コイヌガラシ			●	国・府：準
3	アヤメ科	ノハナショウブ		●		府：Ⅰ類、指定
4	アリノトウグサ科	フサモ		●		府：Ⅰ類
5	イチヤクソウ科	シャクジョウソウ	●			府：準、指定
6	オトギリソウ科	ミズオトギリ		●		府：準
7	オミナエシ科	オミナエシ	●	●		府：絶滅
8	ガガイモ科	スズサイコ	●	●		国：準、府：Ⅱ類準
9		タチカモメヅル	●			府：Ⅱ類
10	ガマ科	コガマ		●		府：準
11	カヤツリグサ科	イガクサ		●		府：Ⅰ類
12		イトテンツキ			●	国：準、府：不足
13	キキョウ科	キキョウ		●		国・府：Ⅱ類、指定
14		サワギキョウ		●		府：準、指定
15	キク科	オオニガナ		●		指定
16		オケラ		●		府：Ⅱ類
17		オナモミ	●		●	国：Ⅱ類、府：絶滅
18		キセルアザミ		●		指定
19	ゴマノハグサ科	カワヂシャ		●	●	国・府：準
20	シソ科	ミゾコウジュ			●	国・府：準
21	スミレ科	アケボノスミレ	●			府：Ⅰ類
22	セリ科	ムカゴニンジン		●		府：準
23	タデ科	コギシギシ			●	国：Ⅱ類、府：準
24	タヌキモ科	タヌキモ		●		府：Ⅰ類
25	マメ科	カワラケツメイ			●	府：準
26		タヌキマメ		●		府：Ⅱ類
27	ミツガシワ科	ガガブタ		●		府：Ⅱ類、環 RDB：準
28	モウセンゴケ科	イシモチソウ		●		府：Ⅱ類、国：準、指定
29		コモウセンゴケ		●		府：準
30	ユキノシタ科	タコノアシ			●	国・府：準
31	ユリ科	ササユリ	●	●		指定
32		ショウジョウバカマ	●	●		指定
33		ノシラン	●			府：不足
34	ラン科	オオバノトンボソウ	●	●		指定
35		カキラン		●		指定
36		キンラン		●		国・府：Ⅱ類、指定
37		コクラン	●	●		指定
38		シュンラン	●	●		指定
39		ミヤマウズラ	●	●		指定
40		ムカゴソウ		●		国：Ⅰ類、府：絶滅、指定
41	リンドウ科	センブリ	●	●		指定
42		リンドウ	●	●		指定
絶滅危惧種数			15	30	9	

<過去の調査データの絶滅危惧種 ～昆虫～>

	科名	種名	奥の谷	錦織公園	石川	備考
1	アオイトトンボ科	キイトンボ	●		●	府:準
2		ベニイトンボ	●		●	国・府:準
3	サナエトンボ科	オグマサナエ	●			国:準、府:Ⅱ類
4		フタスジサナエ	●			国・府:準
5	トンボ科	アキアカネ	●		●	府:準
6		ナツアカネ			●	府:準
7		ノシメトンボ	●		●	府:準
8	キリギリス科	キリギリス	●		●	府:準
9	コオロギ科	カワラスズ			●	府:不足
10	バッタ科	カワラバッタ	●		●	府:絶滅
11		セグロバッタ			●	府:Ⅱ類
12	マルムネハサミムシ科	コヒゲジロハサミムシ			●	府:Ⅰ類
13	コオイムシ科	コオイムシ			●	国・府:準
14	ガムシ科	ガムシsp.	●			国・府:準
15		コガムシ			●	国:不足、府:準
16	コガネムシ科	ドウガネブイブイ	●		●	府:準
17	テントウムシ科	シロジュウゴホシテントウ			●	府:準
18	ハンミョウ科	ハンミョウ	●			府:準
19	ホタル科	ヘイケボタル	●			府:準
20	ミズスマシ科	ミズスマシsp.	●			国・府:Ⅱ類
21	セセリチョウ科	オオチャバネセセリ	●			府:準
22		ホソバセセリ	●			府:準
23	タテハチョウ科	ミスジチョウ	●			府:準
24	ヤガ科	カギモンハナオイアツバ			●	国・府:準
25		シロシタバ	●			府:準
絶滅危惧種数			17	0	15	

<過去の調査データの絶滅危惧種 ～鳥類～>

	科名	種名	奥の谷	錦織公園	石川	備考
1	サギ科	アマサギ		●	●	府：Ⅱ類
2		ヨシゴイ		●		国：準、府：Ⅱ類
3	クイナ科	クイナ		●		府：準
4		ヒクイナ		●		国：準、府：Ⅱ類
5	カッコウ科	ツツドリ		●		府：準
6	ヨタカ科	ヨタカ		●		府：Ⅱ類、国：準
7	カモメ科	コアジサシ		●	●	府：Ⅰ類、国：Ⅱ類
8	シギ科	イソシギ		●	●	府：準
9		キアシシギ			●	府：準
10		クサシギ		●	●	府：準
11		ソリハシシギ			●	府：Ⅱ類
12		タカブシギ			●	国：準、府：Ⅱ類
13		タシギ			●	府：準
14	チドリ科	イカルチドリ		●	●	府：Ⅱ類
15		ケリ		●	●	国：不足、府：準
16		コチドリ		●	●	府：準
17		シロチドリ		●		国：準、府：Ⅱ類
18		タゲリ		●		府：準
19	タカ科	オオタカ	●	●	●	国・府：準
20		クマタカ		●		国・府：Ⅰ類
21		サシバ		●		国：Ⅱ類、府：Ⅰ類
22		チュウヒ		●		国・府：Ⅰ類
23		ツミ		●		府：Ⅱ類
24		ノスリ	●	●		府：準
25		ハチクマ		●		国：準、府：Ⅰ類
26	フクロウ科	アオバズク		●		府：Ⅱ類
27		オオコノハズク		●		府：不足
28		コノハズク		●	●	府：不足
29		コミミズク			●	府：Ⅱ類
30		フクロウ		●		府：準
31	カワセミ科	ヤマセミ		●		府：準
32	サンショウクイ科	サンショウクイ		●		府：Ⅱ類
33	セッカ科	セッカ		●	●	府：準
34	ツバメ科	コシアカツバメ		●	●	府：準
35	ヒタキ科	コサメビタキ		●		府：Ⅱ類
36		トラツグミ		●		府：準
37	ヒバリ科	ヒバリ		●	●	府：準
38	ホオジロ科	オオジュリン		●		府：準
39		カシラダカ	●	●	●	府：準
40		ホオアカ		●	●	府：準
41		ミヤマホオジロ		●		府：準
42	ムシクイ科	センダイムシクイ	●	●		府：準
43	ヨシキリ科	オオヨシキリ		●	●	府：準
絶滅危惧種数			4	38	20	

(2) 生物多様性保全の取組みについて

① 調査結果のまとめ

●生物ホットスポットの状況

- 1) 石川：富田林市域内の河南橋～梅川合流部付近は、石川河川公園「自然ゾーン」と位置付けられて多くの絶滅危惧種の植物、昆虫、鳥類が生育・生息しており、その一部では、公園の指定管理者や市民参加による保全活動が実施されている。
- 2) 奥の谷：比較的良好な里山林や棚田などがまとまって広がり、多くの動植物の生育・生息地となっている。市民団体（富田林の自然を守る会）による長年の継続的な維持管理によって、生物多様性ゆたかな自然環境が保たれている。
- 3) 錦織公園：園内に広い里山林や多数の池があり、指定管理者によって定期的な維持管理が行われている場所のほか、一般の園地利用がされていない森林や水辺も多く、生物多様性の観点からは人の立ち入らない未利用地が重要になっている。
- 4) 美具久留御霊神社：境内の背後に樹齢200年の典型的なシイ林が広がっており、社寺林としての管理が行われているが、竹林の拡大や台風による倒木被害などの状況が心配される。
- 5) 春日神社 6) 錦織神社 7) 滝谷不動明王寺 8) 佐備神社：いずれも社寺林として一定の管理がされているが、生物多様性保全面の管理はされていない。

② 生物多様性保全の視点からの提案

●生物ホットスポットとしての再調査

石川および奥の谷については、数十年前から市民参加による動植物調査や自然環境保全のための取組みがつけられており、生きもののデータや絶滅危惧種の状況もある程度確認され、生物ホットスポットとしての具体的な様相が把握できる。

しかしながら、錦織公園やその他の神社については調査データが少なく、生物ホットスポットとしての具体的な評価や、今後に必要な維持管理内容などを検討しづらい状況と考えられる。そのため、現況を把握するための生きもの調査を行い、絶滅危惧種などが見られるか、過去に評価された自然環境が維持されているか、保全のための課題はなにか、などについて、今後の方針と取組みを検討する必要がある。

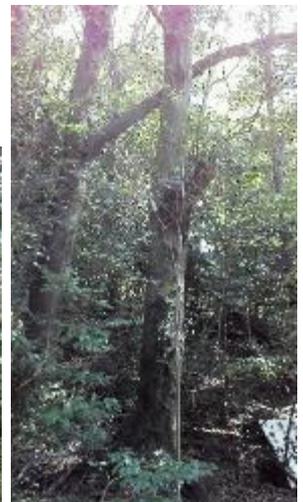
さらに、文献調査にもとづくこれら8箇所以外にも、生物ホットスポットに相当すると考えられる地域があり（嶽山、佐備、南原など H20～27「自然環境保全活用調査」参照）、今後の調査・検討が必要である。



錦織公園の里山林と池:2007



美具久留御霊神社のシイ林:2013



春日神社のシロブカガシ:2013

2. 補足現地調査（中小企業団地：ミゾコウジュ）

R2（2020）年12月に富田林中小企業団地（中野町）で、準絶滅危惧種のミゾコウジュが発見された。現地は周囲を工場や住宅地に囲まれた未利用の空き地で、大きなロゼットがおおよそ100株程度、広く点在している。生育地は高茎草本と一年草のまざる雑草地で一画には水のたまる湿地があり、ミゾコウジュが好む環境と思われた。周囲の同じような環境の空き地3箇所にはミゾコウジュは見当たらず、うち2箇所はその後（2021年1月）に耕起されたので、今回発見した場所だけが継続的に生育できる環境のようである。

発見後、近隣在住の土地所有者にヒアリングしたところ、昔から耕作利用などはしておらず、管理としては、年数回の草刈りと数年に一回程度の耕起（草の繁茂防止のため）を行っているとのことだった。中小企業団地が造成されるまでは（S56/1981年供用開始）、石川増水時に水につかる氾濫原だったと思われ、造成後に人為的に持ち込まれたのでなければ、造成時の種子が「埋土種子（生きたまま土壌中に埋もれている植物種子）」として保存され、その後40年間、毎年繁殖していた可能性がある。

大阪府でのミゾコウジュの状況について大阪市自然史博物館の専門家に確認したところ、以下のような意見を得ることができた。

- ・ミゾコウジュの種子の寿命は長く埋土種子の可能性はある。
- ・ミゾコウジュの大阪での分布は石川以外は淀川以北にしか知られていなかったと思われる。
- ・今では河川沿いにしか見られないが、昔は平野部の水田の畔や畑の縁にもあったと聞いている。
- ・大阪以外では今でも、和歌山では丘陵地の畑の縁、岡山では丘陵地のため池の水際に生えているのを見ているので、平野の氾濫原にしかないとはいえないが、今では見つけにくい。
- ・自然史博物館に保存されている標本は、石川流域で自生のものは1993年に喜志付近の石川左岸で採られた1点のみ（梅原徹氏採取）である。
- ・今回の中小企業団地のミゾコウジュはとても貴重な記録で、花の時期に標本を採るのが良い。



2020年12月の生育地のようす

第2号議案 2022年度会計決算報告

収入					単位：円
項目	予算	実績			前年度実績
		金額	内訳		
補助金	243,000	243,000	市からの助成金		243,000
行事参加費	30,000	35,400	生態系保全 (里山ホリデーなど)		9,600
			観察会(植物観察会、昆虫観察会、水の生き物観察会、観察会入門)		10,500
			米作り (田植え、稲刈り、稲こぎ)		9,600
			文化行事 (どんどこもちつき、里山生活入門)		5,700
寄付金	350,000	302,470	NICE週末		27,000
			京大、神大ワークキャンプなど		78,000
			富田林の自然を守る会より		197,470
雑収入	0	1	利息		1
総計	623,000	580,871			580,871
					752,531

支出					単位：円
項目	予算	実績			前年度実績
		金額	内訳		
			内容	金額	
報償費	30,000	10,000	野鳥観察会、里山クラフト		35,000
消耗品費	100,000	117,911	事務用品		3,603
			保全活動		61,873
			畑など		10,724
			生活用品、その他		41,711
郵送費	10,000	772	総会案内はがきなど		14,218
燃料費	90,000	74,636	軽トラ		19,735
			作業機械		45,000
			発電機		9,901
賄い材料費	10,000	19,912	イベントでの昼食材料など		7,034
備品費	30,000	0	LED投光器、糸鋸盤など		52,590
修理費	60,000	158,205	軽トラ車検、丸ノコ、薪ストープ、薪割り機修理、など		65,230
施設管理費	5,000	5,581	事務所電気代など		152,762
施設整備費	40,000	51,268	生き物池排水溝修理、製材		94,628
保険料	90,000	108,586	スポーツ安全保険		30,000
使用料及び賃借料	30,000	30,000	水田使用料		0
国際ワークキャンプ費	100,000	0	中止		0
雑費	28,000	4,000	軽トラ自動車税		90,000
総計	623,000	580,871			580,871
					752,531

市助成金対象分 (243,000円)		
予算費目	内容	金額
報償費	野鳥観察会、里山クラフト	10,000
消耗品費	事務用品、保全活動、畑など	117,911
燃料費	軽トラ、作業機械、発電機	74,636
郵送費	総会案内はがきなど	772
修理費	軽トラ車検、丸ノコ、薪割り機、チップパー修理	158,205
施設管理費	守る会事務所電気代	5,581
施設整備費	生き物池排水溝修理、間伐材製材代金	51,268
保険料	スポーツ安全保険、大阪里山保全G傷害保険	108,586
使用料及び賃借料	水田使用料	30,000
雑費	軽トラ自動車税	4,000
合 計		560,959

監 査 報 告 書

令和 5年 3月31日

富田林の自然を守る市民運動協議会
会長 田淵 武夫 様

会計監事 富田林の自然を守る市民運動協議会
理事 喜田 光子 

富田林の自然を守る市民運動協議会規約第6条に基づき、年度会計に関する監査を
下記のとおり実施したところ、次のとおりであったので報告します。

【 監査結果 】

事 項	意 見	指 摘 事 項	備 考
事 業 等 の 実 施 状 況	問題なし	特になし	
会計事務の状況	問題なし	特になし	
そ の 他	特になし	特になし	
総 括		適正・概ね適正・不適正	

第4号議案 2023年度事業計画（案）

1 自然環境保全活動

(1) 里山保全活動

「里山ホリデー」と称して里山保全の作業を下記の日程で行う。作業の内容は、雑木林の下樵り、竹林整備と竹林の拡大防止、人工林の管理（間伐、枝打ち、皮むきなど）、休耕田・放棄田、溜池の土手などの草刈り、果樹の手入れ、自然観察路（作業路）造成・整備などとする。場所は奥の谷および南原とその周辺で、時間は原則として毎回10:00～15:00頃とする。

日程:2023年4月22日(土)、5月20日(土)、6月17日(土)、7月15日(土)、10月7日(土)、11月11日(土)、12月17日(日)、2023年1月13日(土)、2月10日(土)、3月9日(土)。なお、12月17日は「里山保全作業と交流会」と称して午前は里山保全作業を行い、午後は交流会とする。また、『富田林の自然を守る会』は30周年記念事業として『協議会』が2006年に提案した奥の谷周辺の観察路について、その両側約10mに里山的管理を実施する事業を2019年度より開始している。雑木林の下樵り、竹林整備、人工林の管理についてはこの計画を踏まえて実施する。

なお、新型コロナウイルス感染拡大が収束に向かっており、多くの事業を通常に戻して実施するが、状況によっては中止する場合もある。また、各事業を申込み制とし、定員を20名とする。

(2) 岸本記念自然緑地公園

これまで『協議会』が整備してきた中野町の竹林が2023年4月から「岸本記念自然緑地公園」として富田林市の管理となった。実際の管理作業は業者に委託されることになると思われる。この緑地公園は市街地に隣接する自然であり、自然のネットワークとして、また地域住民が身近にふれあえる自然として極めて貴重である。当緑地にはヒメボタルやカブトムシなどの生息がみられ、植物ではキケマン、ウラシマソウ、ヤブカンゾウ、センダングサなどの生育がみられており、市街地としては比較的生物多様性豊かな緑地となっている。これらの生物にできるだけ影響が少なくなるように園路幅や街灯の改善などを含めた管理が必要である。また、これまでもオオシマザクラやマムシグサが近隣の里山から移入されているが、今後も近隣の里山や草地から在来の植物を移入するなどして、自然に近い状態で身近にふれあえる場として充実させていくことがよいと考えられる。2021年に「中野町竹林における植生管理の方策」を策定している。今後はこれをもとに調査を実施し適宜更新して順応的管理を提案することとする。

2 文化的活動

(1) 米作り体験

借地している奥の谷の水田で有機栽培による米作りを行う。収穫した米は原則として各種行事に使用する。日程は次の通りとする。

①田植え:6月10日(土)10:00～15:00頃(予備日11日)。

②稲刈り:10月14日(土)10:00～15:00頃(予備日15日)。

③稲こぎ:11月4日(土)10:00～15:00頃(予備日11月5日)。

(2) 春の野草を食べる会

日時:4月29日(土;昭和の日)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(3) 里山クラフト

日時:11月23日(木;勤労感謝の日)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(4) どんどこもちつき

日時:1月14日(日)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(5) 里山生活入門

日時:1月27日(土)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷

(6) 観察会入門（春を見つけよう）

早春の動植物を見つける。

日時:2月24日(土)。

場所:奥の谷。

3 自然観察・調査研究・提言活動

(1) 自然観察

①植物観察会

下記の日程でおこなう。原則として奥の谷を中心として実施するが、適宜地域を変更する。また、内容についても検討する。

日程:4月8日(土)、5月7日(日)、6月3日(土;金剛福祉センター～観心寺)、7月9日(日)、8月12日(土)、9月17日(日)、10月21日(土;どんぐり観察)、11月26日(9日)、3月23日(土)。

②水の生き物観察会

「水の生き物池」で水生生物を採集・観察する。

日時:6月24日(土)10:00～13:00頃。

場所:奥の谷。

③昆虫観察会

子どもを中心に、ネットによる自由採集、バナナによるベイトトラップ、ライトトラップ、夜間ルート観察などを行う。

日時:7月22日(土)15:00～21:00頃。

場所:奥の谷。

④野鳥観察会

日時:2月18日(日)9:00～13:00頃。

場所:近鉄滝谷不動駅～石川～春日神社～奥の谷。

(2) 自然環境保全活用調査 その22

富田林市が里山倶楽部に委託して行う調査に積極的に協力する。

(3) 冊子「富田林の自然」No. 20 の発行

「富田林の生き物、自然景観、保全活動などを写真で紹介」、「専門家による自然保護に関する解説」、「富田林の生物調査などの紹介」、「自然環境保全活用調査の抜粋」、「協議会参加団体の活動紹介」、「協議会の活動報告」などを内容とする冊子を3月に発行する。

(4) 生物多様性保全の取り組み

「自然環境保全活用調査」において2016年度より「生物多様性保全のための基礎調査」が行われてきている。これらの調査を踏まえて「生物多様性地域戦略」の策定に向けて検討する。

(5) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

計画で実施することになっているPDCAサイクルでの進行管理をどのように実施するかを検討を行う。また、森林環境譲与税の活用を含め具体的に計画が実行できるよう関係機関に働きかける。

(6) 森林環境譲与税の使途について

2022年度は市内の森林2箇所を調査した。2023年度も引き続き調査を行う。これらの調査や市が大阪府に依頼する調査の結果踏まえて森林環境譲与税を活用した効果的な事業について具体的な検討を行う。

4. 自然保護活動への支援・援助

(1) 国際ワークキャンプ

これまで『守る会』がNICEと共催で行う「国際ワークキャンプ」を支援してきたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い2020年以降実施されていない。2023年度も実施を見送ることが決まっているためこれに対する援助は行わない。

(2) 協議会加入団体への支援

当協議会加入団体の活動に対し必要に応じて支援・援助を行う。

5. 会議

(1) 役員会：原則として毎月第3金曜日の10時～12時に市役所において開催する。

(2) 総会：2024年5月に市役所で開催する。

第5号議案 2023年度予算案

歳入

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減 (予算-前年度予算)	備考
補助金	243,000	243,000	243,000	0	
行事参加費	35,000	30,000	35,400	5,000	
寄付金	300,000	350,000	302,470	-50,000	自然を守る会から20万円を予定
雑収入	0	0	1	0	
繰越金	0	0	0	0	
総計	578,000	623,000	580,871	-45,000	

歳出

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減(予算-前年度予算)	備考
報償費	20,000	30,000	10,000	-10,000	
消耗品費	100,000	100,000	117,911	0	
郵送費	30,000	10,000	772	20,000	
燃料費	80,000	90,000	74,636	-10,000	
賄い材料費	20,000	10,000	19,912	10,000	
備品購入費	20,000	30,000	0	-10,000	
修理費	100,000	60,000	158,205	40,000	
施設管理費	6,000	5,000	5,581	1,000	
施設整備費	50,000	40,000	51,268	—	
使用料及び賃借料	30,000	30,000	30,000	0	
保険料	100,000	90,000	108,586	10,000	
国際ワークキャンプ費	0	100,000	0	-100,000	
雑費	22,000	28,000	4,000	-6,000	
総計	578,000	623,000	580,871	-45,000	

第 6 号議案

富田林の自然を守る市民運動協議会 2023 年度役員(案)

役員名	氏 名	団 体 名
会 長	田淵 武夫	富田林の自然を守る会
副会長	上角 敦彦	嶽の会
会 計	上角 敦彦	嶽の会
会計監査	小川 カ也	NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク
理 事	寺川 裕子	NPO法人里山倶楽部

団 体 名	郵便番号	連 絡 先	電話番号
富田林の自然を守る会	584-0024	若松町四丁目16番21号	090-8888-3912
竜泉里山クラブ(代表)	586-0094	河内長野市小山田町3079-8	090-7118-2517
里山倶楽部	584-0024	若松町四丁目20番6号	0721-25-3128
嶽の会	584-0024	若松町四丁目6番29号	0721-24-8757
NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク	584-0032	常盤町15-10 石田ビル3F	0721-55-4682

※緊急連絡先 田淵会長 携帯電話 090-8888-3912

オブザーバー参加 日本国際ワークキャンプセンター関西事務局

事務局	産業まちづくり部	森木 和幸	部長
		片岡 一浩	理事
	農とみどり推進課	山中 敬之	次長兼課長
		花岡 美保	課長代理
	みどり公園係	西田 圭佑	係長
		日野 真志	係員
		山口 はるか	係員

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号 富田林市役所
電話 0721-25-1000 内線 424 FAX0721-20-2072
Eメール nou@city.tondabayashi.lg.jp